2019 年度
ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in ひろしま
実施報告書

2019 年 10 月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

目　次

はじめに …… 1
実施概要 …… 2
スケジュール …… 3
笑いのあるワークショップを求めて
庄﨑 隆志 …… 4
ノンバーバルコミュニケーションが持つ力
メイミ …… 9
プログラム概要　海田なかよし実習所 …… 14
参加者の感想 …… 15
プログラム概要　社会福祉法人安芸の郷　森の工房やの …… 16
プログラム概要　社会福祉法人安芸の郷森の工房みみずく …… 17
参加者の感想 …… 18
…… 19
プログラム概要　社会福祉法人やぎ 八木園 …… 31
参加者の感想 …… 32
特定寄付金協力謝礼 …… 33
編集後記 …… 34

はじめに

当基金では、平成 23 年の東日本大震災後の福島の障害のある子どもたちへの取組として、「ふくしまっこキャンプ」と題した活動を福島から関東へお招きをして、平成 24 年度から続けてまいりました。

平成 27 年度は、福島県内において活動できる内容として、養護学校中心にノンバーバル（非言語）コミュニケーションワークショップと題した、子どもたち同士がよりよくコミュニケーションを図るきっかけとして、楽しみながら体験していただくために開催しました。また翌年も、福島県内の障害のある子どもが通う特別支援学校や障害者施設でワークショップを行い、地域の中で支えあうつながりを強くすることができないかという目的のもと、２日間で４施設を訪問させていただきました。

平成２９年度は、前年４月に発災した熊本地震の被災地域にある障害者団体を３施設訪問させていただき、併せて、同時期に開催された第 66 回全九州ろうあ者大会と協働し、研修会とアトラクションの中で、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについての学びの場と致しました。

昨年度は、三陸沿岸各地で道路が開通され、復興の歩みを進めておられる宮城県の石巻市・女川町と北海道胆振東部地震で被災された北海道胆振及び札幌市の障害者施設を中心に実施致しました。

今年度は、昨年７月の西日本豪雨において被害にあわれた広島市の障害のある方々に対して、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについての学びの場と致しました。

２０１９年１０月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

実　施　概　要

ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ　in ひろしま

1. 目　的　　ナイスハート基金は、平成２３年度より東日本大震災等の被災地を対象として活動を実施して参りました。平成２７年度は福島県内の障害のある子どもが通う特別支援学校等でワークショップを行うことにより、地域の中で支えあうつながりを強くすることができないかという目的のもと、２日間で４施設を訪問し開催することができました。

昨年の９月には、宮城県の石巻市･女川町中心に４施設訪問させていただき、３ 月には北海道胆振東部地震で被災された北海道胆振及び札幌市の障害者施設を中心にノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりを致しました。

今年度は、昨年７月の西日本豪雨において被害にあわれた広島市の障害のある方々に対して、未曽有の水害被害等の慣れない環境の中で生活されていた皆様に、新たな出会いとコミュニケーションについて考える場をつくり、障害や障害のある人への理解が深まることを目的に実施したいと考えています。

2. 日　時　　2019 年９月１１月（水）～１３日（金）

3. 場　所　　海田なかよし実習所（広島県安芸郡海田町）
社会福祉法人安芸の郷（広島県広島市）
社会福祉法人やぎ 八木園（広島県広島市）

4. 主　催　　公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

5. 後　援　　広島市 /（福）広島市社会福祉協議会

6. 助　成　　社会福祉法人黎明会 福祉開発振興援助事業

7. ファシリテーター　庄﨑隆志さん　office 風の器主宰・俳優・演出家
メイミさん　漫談家・介護福祉士 ･NPO 法人笑顔工場理事長

～スケジュール～

9 月 11 日

12:30 海田なかよし実習所到着
13:00 ワークショップ開始→ご挨拶
　　ハイタッチ / 手拍子 / 拍手
13:05 早着替え / メイミパフォーマンス V 字 / 変身ショー / ダンス
13:20 エアーなわとび
13:25 ミラーリング
13:35 人形ゆらし
13:45 汽車ごっこ / ハイタッチ / 記念品贈呈
13:50 ワークショップ終了

9 月 12 日

9:30 社会福祉法人安芸の郷　森の工房やの到着
10:30 ワークショップ開始→ご挨拶
　　ハイタッチ / 拍手 / 決めポーズ
10:40 ジャンプ / 庄﨑パフォーマンス
10:50 早着替え / ダンス
10:55 ミラーリング
11:00 エアーボール / エアーなわとび
11:15 人形ゆらし / 変身ショー / 記念品贈呈
11:30 ワークショップ終了

13:20 ワークショップ開始→ご挨拶
　　ハイタッチ / 拍手
13:35 早着替え / 社交ダンス
13:50 エアーボール
13:55 変身ショー
14:05 人形ゆらし
14:15 しばい・男と女の出会い・港の口マン / 汽車ポッポ / 記念品贈呈
14:20 ワークショップ終了

9 月 13 日

12:30 社会福祉法人やぎ 八木園到着
13:10 ワークショップ開始 →ご挨拶
　　ハイタッチ / 拍手
13:20 早着替え / ダンス
13:25 エアーボール
13:30 社交ダンス
13:40 庄﨑パフォーマンス（眼鏡のとりはずし等）/ エアードライブ
13:50 人形ゆらし / ミラーリング / 記念品贈呈
14:20 ワークショップ終了

笑いのあるワークショップを求めて

庄崎 隆志
Takashi Shozaki

障害のある方たちとのワークショップを行うことにおいては、楽しい６０分間でなくてはなりません。そこには「流れ」「演出」「即興性（インプロ）」が大切で、無理なく、無駄なくすすめることとステージに立つ障害のある方がその場で輝いてそれでいて見ている人たちが面白いと思えるようなノンバーバルワークショップをすることが目標です。あまり難しいことを要求されると、参加者は「興味無し」になってしまいます。逆に、簡単すぎると参加者は飽きて退屈してしまいます。ワークショップには楽しさ（笑い）の要素は必須だと思います。

私がファシリテーターをつとめるワークショップでは、「笑顔で終わろう！」をモットー

にしています。興味を持ってもらえること、楽しい内容であることを優先してプログラムを構築しています。６０分のワークショップの中で、自然に笑いがおこり、終わってからもみんなが笑顔になっていることで手応えを感じています。ワークショップ実践中に、この自然におこる笑いの回数が多いほど、一体感が増し、結果的に参加者にとって満足度の高いワークショップになるのではと確信しています。

今回も、ワークショップ終了後に参加者から「楽しかったです！」という感想も頂きました。楽しんでもらえることが第一歩の目標でしたので、嬉しい感想でした。
一方で笑いのエンターテイメントとして納得いくものであったかも振り返りました。共演くださったメイミさんは笑いの達人であり、プロのお笑い芸人でもあり、たくさんフォローをしていただき、学ばせていただくことがあり、自分自身にとってとてもありがたい時間でもありました。

振り返りますとナイスハート基金のノンバーバルコミュニケーションワークショップの企画（障害のある方とのワークショップ）をはじめて５年になります。中には実に個性的でユニークな障害のある方達との出会いもありました。
振り付けも台本もないのに、参加者のみなさん

楽しそうに舞台の真ん中にあがり、まるでプロのアーティストのように踊りだし、そこには感情の解き放たれた満面の笑みで自由奔放に踊り出すパフォーマーたちの演技が繰り広げられていました。
まさに障害のある参加者は自由なアーティスト達です。途中、のって来ると身体が自然と動形や決まりにとらわれず自分を自由におもいっきり表現していきます。

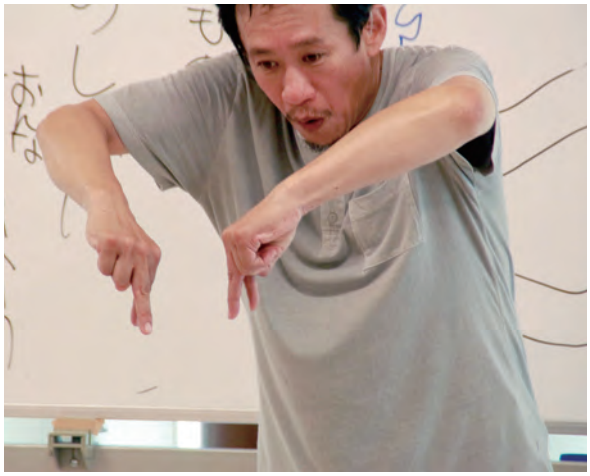
今回、新しくとりいれた『人形ゆらし』では、参加者のみなさんから「かわいい！」という歓声もいただくことができて、その先には感想をシェアするコミュニケーションの場ができあがっていました。

車椅子の方も人形を持って揺れたり回ったりしてもらい、僕らがその人形に合わせて動く手法をとりました。自分が主役となるようなドラマ創りも体感していただきました。
みなさん、抵抗なくすんなりと参加してくださり、さまざまなダンスのかたちに積極的に挑戦してくれました。何よりもリードしやすく盛り上がりました。

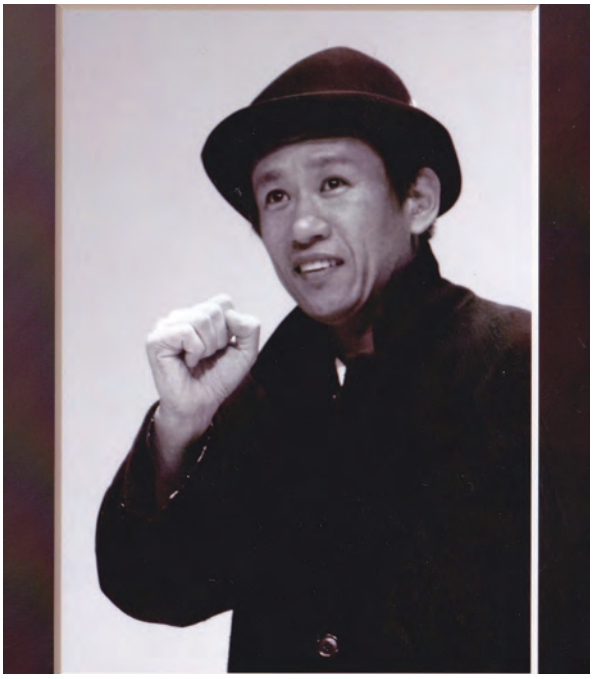
「笑い」を学ぶワークショップでは、「笑い」を

どうとらえるのかを掘り下げ、難しさについて気づきを引き出すよう展開していきました。頭を使って考えるワークショップよりも身体を使って動くインプロワークショップが良いではないかと思い展開しました。もちろん、参加したくない参加者、人前が苦手な参加者もいます。そんな参加者を無理には引っ張りだしたりしませんが、面白いのは見ている間の彼らの表情や行動の変化です。引き気味でいたものの、いつしか表情が緩み笑顔が出てきたり、急に参加し踊りだしたりと自分なりのカタチで参加しはじめてくれました。

みなさんの自由な参加のあり方を見て、今のワークショップのあり方を見直していくべき時期を迎えていることも気づかされました。ルールを完全に決めるのではなく、参加者の動きや状態を観察し、それにあわせて自由な変化、演出が必要であることがわかりました。楽しそうにしているのでもっと続けるべきか、切り上げて別の出し物に進むべきかよく見極め「もう少し続けたい、というあたりでやめる」のがいいということもわかりました。トコトンやってしまうと、何か「すっかり終わり」という気分になってしまい、盛り上がりが失われるものになってしまうことが懸念されます。



ともかく参加者のみなさんの変化を目の当たりにして、私自身の心と身体に「いのち」が吹き込まれ、生きる力が湧いてきました。私は「ナイスハートの場」をしつらえ、人と人を紡ぐだけで、参加者の人生の素晴らしさを知ることを共有できるのですから、こんなに素敵なことはありません。素晴らしい機会をいただけましたこと改めて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。



庄﨑隆志

演出家・劇作家・舞台俳優・ノンバーバルコミュケーター
舞台俳優・日本演出者協会会員・日本劇作家協会会員・ｏｆｆｉｃｅ風の器主宰元デフ・パペットシアター・ひとみ代表・創立メンバー（１９８１～２００４）

１９６１年東京杉並区生まれ。現在淡路島在住。身体で人間を表現する「コトバ」を超えた表現者であり、劇作家、演出も手掛ける。１９８１年より全国各地７５０箇所２５００ステージ、欧州、米国、アジア等１４ヶ国公演を経験。『オルフェウス』『ＵＫＩＹＯＥ』『里亞王～リア～』『真夏の夜の夢』『波無烈斗～ハムレット』等シアターＸ提携公演、横浜赤レンガ倉庫・俳優座劇場・横浜ランドマークタワー・前進座劇場・世田谷パブリックシアターなど演出という実績を持つ。大学、企業、文化庁の演劇大学、国際障害者年記念ナイスハート基金、日本劇作家大会などでノンバーバル演劇（非言語）ワークショップ、身体表現の講座などの活動を続けている。平成２２年度横浜文化賞・文化芸術奨励賞受賞。第１～６回全国高校生手話パフォーマンス甲子園審査員長

ノンバーバルコミュニケーションが持つ力

メイミ

Meimi

ノンバーバルコミュニケーションワークショップ広島にて今回もファシリテーターを務めさせて頂きました。
国際障害者年記念ナイスハートの皆さま、開催施設の皆さま、庄﨑隆志さん、そしてご支援を頂きました皆様、心より感謝申し上げます。

豪雨被災地にある施設を訪れ、施設の方に当時の状況を伺いました。
毎年、各地で起こる自然災害による被害が減ることを強く願うと共に、大変な時こそ人と人との繋がりがいかに大切かということを改めて感じました。
その意味でも、やはり日頃からのコミュニケーションは重要ではないでしょうか。
今回のワークショップでは、様々なコミュニケーションの中で温かくも力強い皆さんのエネルギーを大いに感じる３日間でした。

毎度感じることですが、同じプログラムを行なっても決して同じ空間は生まれないという

ことです。
相手が違えば反応も違うので当然のことですが、いつも一緒にファシリテーターを務める庄﨑さんと私でさえも全く違うものになります。
半年ぶりの再会ですが、この半年間にもそれぞれの生活状況にも変化があり、半年前の自分とはきっと違うのではないかと思います。
生きるリズム感や様々な背景、一人一人の世界があり、それが一堂に会してコミュニケーションを取っていくのですからそれはもう凄い空間が広がります。
初対面ともなると、相手の空気感やリズムを感じとりながら手を変え品を変えアプローチしていくのですが、もちろん失敗することもあります。
ですが、失敗して終わりではなくまた違うアプローチでコミュニケーションを図ることで、共鳴する瞬間が訪れます。
そのときの喜びは計り知れず、とても嬉しいものですが、失敗の中にも気付きや発見があります。

あるパフォーマンスの評判悪く、大ブーイングが起きました。
もちろんこれについては今後改善する材料となりますが、ただこれも一つのコミュニケーションだということを発見しました。
こちらのアクションに対してそれは嫌だと

返ってくる。その反応がとても分かりやすくストレートで、強い言葉で言えば拒絶反応なのですが、そのストレートな反応があまりにも気持ちよく思わず笑ってしまいました。
そして皆もその後、それを引きずることなくまた楽しいコミュニケーションのときを過ごしました。
実は私自身、日頃からノーと言えない性格。断ったら気を悪くするかもしれない等と勝手に推し量り嫌だと思いつつも受け入れてしまうこともしばしばあります。
今回の出来事での経験はまた一つ自分自身のコミュニケーションの幅を広げる機会になったように思います。

ワークショップの中でもう一つ印象に残る反応がありました。
全身を大いに使い一緒になって動いてコミュニケーションを図ります。すると自分もやってみたいと自然と輪に入って参加する方もいらっしゃいます。
ある男性が「楽しそうだ！参加したい！」と言わんばかりにやってくるのですが、一緒に何かを始めると、今度は突然、きれの良い動きと声で怒りを表現し去っていきました。
そのままプログラムを進めていると、また参加したい！とやってくるのですが、始まってみるとやはり何かが気に食わないのか、勢い良く怒って去っていくのです。

その様子が爽快で、それを見ている皆から笑いが起きました。
ファシリテーターの２人も、彼とのコミュニケーションが不思議と楽しくて、また輪に入ってくる度、きっとまた怒って帰っていくのだろうと分かりながらも受け入れます。
怒りのパワーは素晴らしいエネルギーへと変わることがあるということを思い出しました。
アート、音楽 etc そのエネルギーが芸術表現へと繋がることがあります。
感情を全身で表現することの素晴らしさを実感しました。
「ノーと言えない性格」とも通ずるのですが、これまた私は怒りを表現するのも下手くそです。

この二つの事から、気付くこと。
ネガティブな意味を持つ感情の表現は決して悪いことではないということ。
推し量ることが文化的にも根付く日本で、私と同じようにネガティブなものの表現が上手くできない人も多いかもしれません。
しかし、素直な表現は決して相手を不快にするとは限らないということを、ノンバーバルコミュニケーションを通して感じました。

印象に残る２つの出来事をご紹介しましたが、ここには書ききれない程に参加する皆さんの個性が輝く時間でした。
特に今回は、ファシリテーターが主導でプログラムを進めるというよりは、個々のやってみたい！という想いを受け留め、そこから新しく展開する状況も多かったです。
様々な個性が集い、個々の自由な世界が広がり誰一人として同じものはありません。だけど不思議な一体感が生まれる瞬間があります。
ノンバーバルコミュニケーションの自由さが為せる業ではないでしょうか。

今回も素晴らしい機会を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。有難う御座いました。

メイミ

漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長。港区登録手話通訳者。
舞台や各種イベント、様々な場面で漫談家・司会者等の活動をする傍ら、都内のデイサービスセンターで介護福祉士として高齢者介護に携わる。特定非営利活動法人笑顔工場を設立し、現在は十数名の若手芸人の参加者を連れて、関東を中心に福祉施設でのお笑いライブを展開。様々なボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。これからの長寿社会に向け、「笑って長生き」という考えを広める為の活動を展開している。アイディアヒューマンサポートアカデミー / カウンセリングスキルベーシック / トップメンタルトレーニング修了。日本アロマセラピー統合医学協会認定心理アロマアドバイザー。クエスト総合研究所認定 / クエストアートセラピーメンタルケア・アドバイザー

プログラム概要

海田なかよし実習所　９月１１日（水）

時間	プログラム	写真
１３：００～	ワークショップ開始 ご挨拶 ハイタッチ / 手拍子 / 拍手	
１３：０５～	早着替え メイミパフォーマンスＶ字 変身ショー / ダンス	
１３：２０～ １３：２５～	エアーなわとび ミラーリング	
１３：３５～	人形ゆらし	
１３：４５～ １３：５０	汽車ごっこ / ハイタッチ 記念品贈呈 ワークショップ終了 【参加者合計３６名】	

参加者の感想

海田なかよし実習所　９月１１日（火）

「ノンバーバルコミュニケーションの感想」

海田なかよし実習所　大村　法之

ノンバーバルコミュニケーションでは、遠い所御足労頂きまして、誠に有難う御座いました。
みんなで、楽しく参加させて頂き、楽しませてもらいました。
またの機会がある事を願っております。
この度は、本当に楽しい時間を有難う御座いました。

プログラム概要

社会福祉法人安芸の郷　森の工房やの　９月１２日（木）

時間	プログラム	写真
１０：３０～	ワークショップ開始 ご挨拶 ハイタッチ／拍手 決めポーズ	
１０：４０～	ジャンプ 庄﨑パフォーマンス	
１０：５０～ １０：５５～	早着替え／ダンス ミラーリング	
１１：００～	エアーボール エアーなわとび	
１１：１５～ １１：３０～	人形ゆらし 変身ショー 記念品贈呈 ワークショップ終了 【参加者合計６４名】	

プログラム概要

社会福祉法人安芸の郷森の工房みみずく　９月１２日（木）

時間	プログラム	写真
１３：２０～ １３：３５～	ワークショップ開始 ご挨拶 ハイタッチ／拍手 決めポーズ 早着替え／社交ダンス	
１３：５０～	エアーボール	
１３：５５～	変身ショー	
１４：０５～	人形ゆらし	
１４：１５～ １４：２０～	しばい 男と女の出会い・港のロマン 汽車ポッポ／記念品贈呈 ワークショップ終了 【参加者合計３４名】	

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

ノンバーバルコミュニケーション

3人の手品が良かったです。
大なわでとぶ事が出来てよかった
人とはりたっちも出来てよかった
色んな人とかかわって活動
出来てよかった。体がでかくて
びっくりしました。じじんがいて
かわいい・すてきでした。

竹本義基

参加者の感想

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

参加者の感想

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

参加者の感想

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

参加者の感想

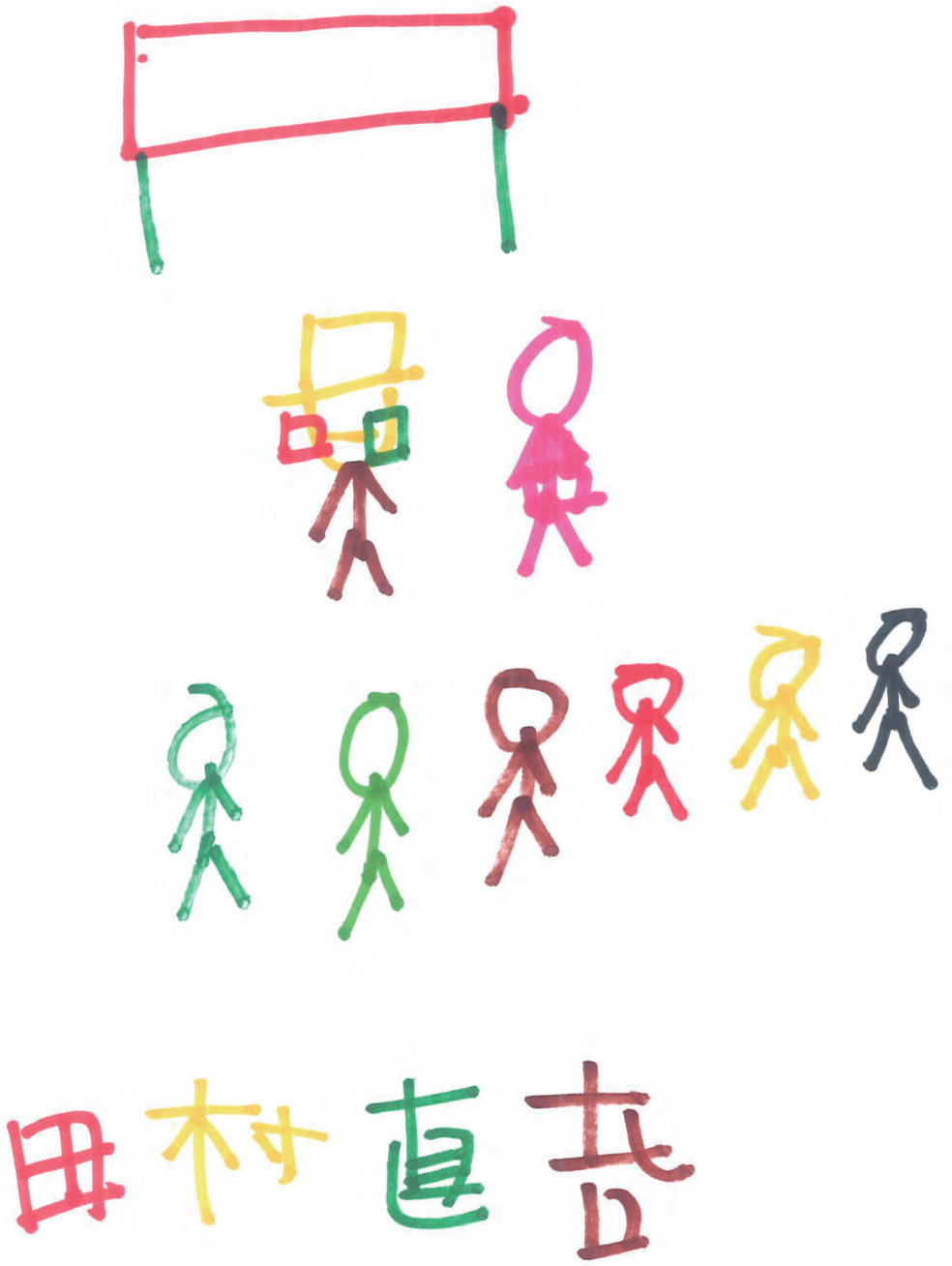
社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

参加者の感想

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

参加者の感想

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）



参加者の感想

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

おもとたけん

参加者の感想

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

いそがしい中、森の工房に来て下さり、まことにありがとうございました。

すばらしい物をひろうしてくれて、森の工房の利用者や職員さんは、笑顔や心からの感動たくさんもらいました。

私は、初めて見て、ものすごくはずかしいかったけど、2人の服そうがかわいかったです。

林　百合香　より。

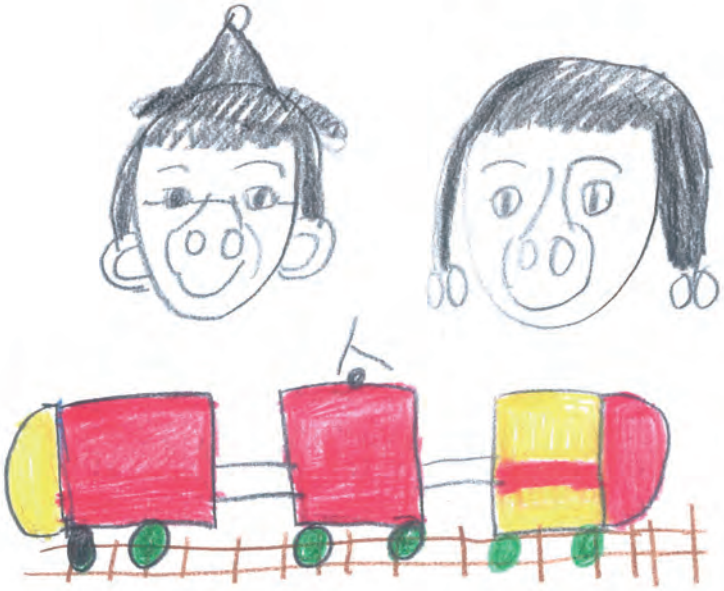
参加者の感想

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

参加者の感想

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

１番前に出てきて
はずかしいかった
けど楽しかった。
またきてください。



永井 飛鳥

参加者の感想

社会福祉法人安芸の郷　９月１２日（木）

庄崎さんとメイミさんへ

この前は遠い所からAMAの方へ来て
いただいてありがとうございました

とても楽しい時間をすごさせて
もらいました またプレゼントをありが
とうございました 庄崎さんと
メイミさんの笑顔をみてたら楽しそうな
ふいんきが伝ってきました またいつ
かあそびにきて下さい
ありがとうございました

「ノンバーバルコミュニケーションワークショップに参加して」

社会福祉法人安芸の郷　森の工房みみずく・森の工房やの（生活介護）　坂田　健

この度は「ノンバーバルコミュニケーションワークショップ」に参加させていただきありがとうございます。

「ノンバーバルコミュニケーション」というのは、非言語を使ったコミュニケーションということで楽しそうな企画だなと感じ、ワクワクとドキドキをかかえながら当日を迎えました。

当日は利用者のみなさんも何が始まるのだろうという表情でしたが、演者の庄崎さん、メイミさんが登場してからは、だんだんと笑顔が増えていくのが見られました。

最初は見ているだけだった利用者でしたが、一緒に体を動かしていくうちに一体感が増していき、いつの間にかみんなで楽しんでいく様子に感動しました。

利用者の代表が前に出て、ミラーリングを行うことで、受け身から主体性が生まれ、さらにイベントが盛り上がるのを感じました。そうなると利用者も「自分も、自分も」という感じで積極的になっていきました。

また、こだわりのある利用者に対して職員では行わないコミュニケーションをどんどん行っていかれ、不安になることもありましたが、そんな不安を他所にみなさん楽しんで参加していました。

最後は見守るだけだった職員もいつの間にか、お二人に引き込まれ一緒に楽しんでいました。

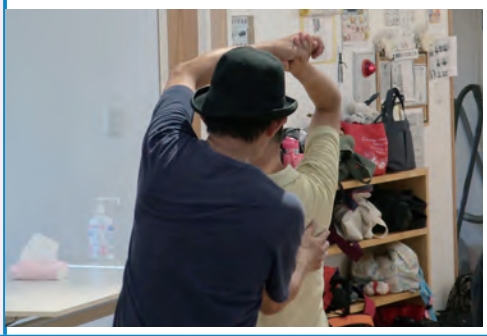
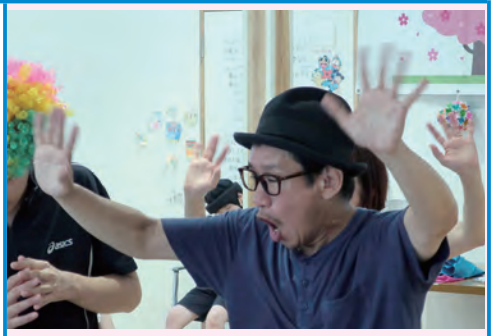
このワークショップを通じて、言葉だけではないコミュニケーションの取り方、表情を見ながら少しずつ距離感を縮めていく様子など勉強になることばかりでした。また利用者の新たな一面を見ることができたことも、大きな財産になりました。

庄崎さん、メイミさんのお二人が汗をいっぱいにかきながら、笑顔で利用者と接していくことに利用者だけでなく、私たち職員も大きな力をいただきました。

最後に今回のワークショップを企画してくださいました（公財）国際障害者年記念ナイスハート基金関係者のみなさま、ファシリエーターの庄崎隆司さま、メイミさまこのような機会を設けていただけたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

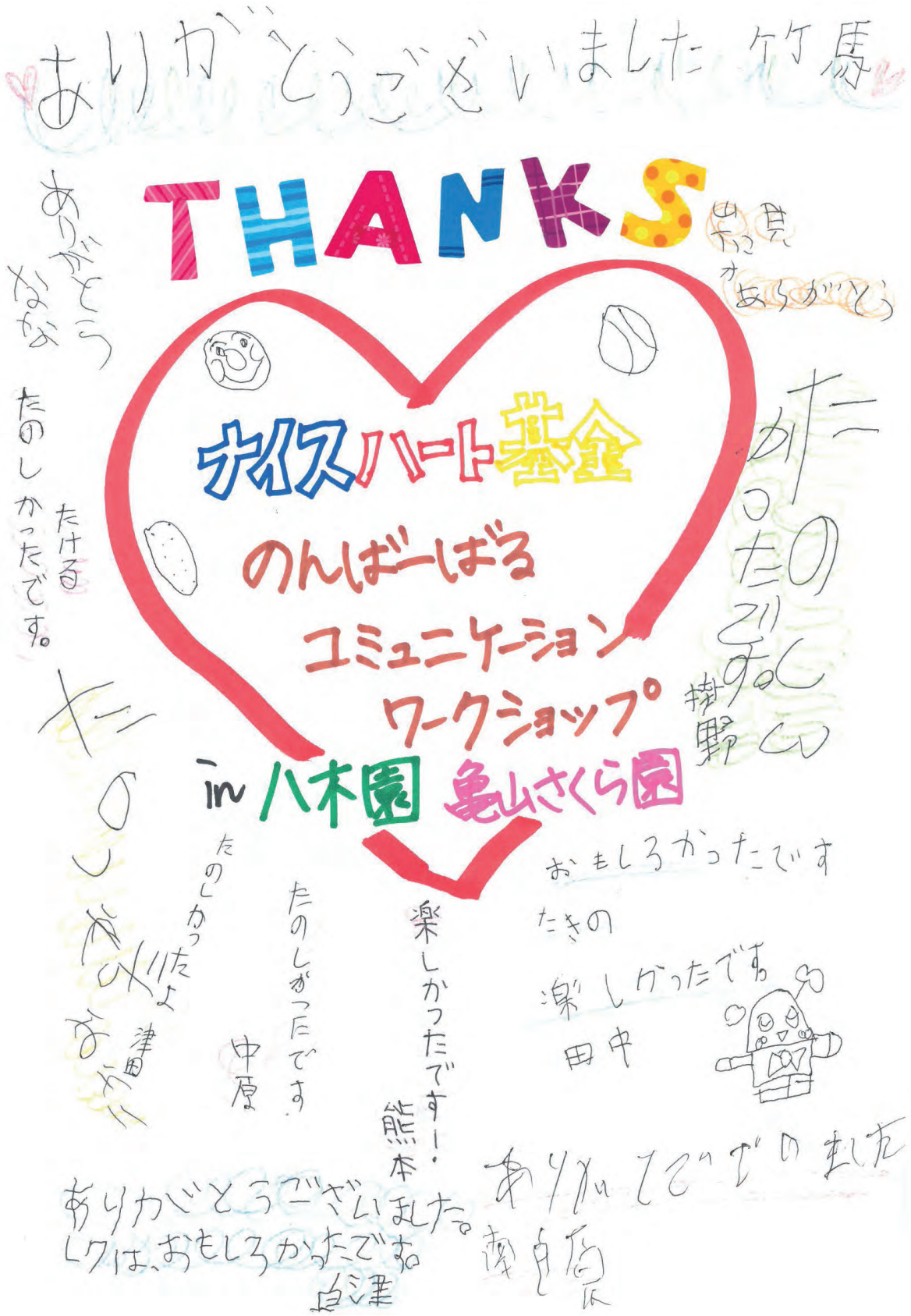
プログラム概要

社会福祉法人やぎ 八木園　９月１３日（金）

時間	プログラム	写真
１３：１０～	ワークショップ開始 ハイタッチ 汽車ごっこ	
１３：２０～ １３：２５～	早着替え / ダンス エアーボール	
１３：３０～	社交ダンス	
１３：４０～	庄崎パフォーマンス （眼鏡のとりはずし等） エアードライブ	
１３：５０～ １４：２０～	人形ゆらし ミラーリング 記念品贈呈 ワークショップ終了 【参加者合計６０名】	

参加者の感想

社会福祉法人やぎ 八木園　９月１３日（金）



特定寄付金協力謝礼

＜実施事業の概要＞

東日本大震災後の不安定な環境により、福島の子どもたちは外で活動する機会が減り、とりわけ障害のある子どもたちに対する支援は行き届かない状況が続いています。このような環境の中、障害児とその家族の精神的負担は大きいものだと考えられ、支援の必要性を強く感じています。

平成２４年度より実施した、福島の障害のある子どもと家族のための「ふくしまっ子キャンプ」では、３年次にわたり多くのご家族とボランティアの参加を得て、好評のうちに実施することができました。また、この活動に対して、平成２６年度には募金総額　1,827,550円（12 団体 /16 個人）のご寄付をいただき、支えていただきました。

昨年度は三陸沿岸各地で道路が開通され、復興の歩みを進めておられる宮城県の石巻市・女川町を舞台に更なる人と人がつながりあう中での復興を願い実施させていただき、募金総額 368,000 円（5 団体 /5 個人）のご寄付をいただき支えていただきました。

今年度は、昨年７月の西日本豪雨において被害にあわれた広島市の障害のある方々に対して、未曽有の水害被害等の慣れない環境の中で生活されていた皆様に、新たな出会いとコミュニケーションについて考える場をつくり、障害や障害のある人への理解が深まることを目的に実施させていただきました。

みなさまに募金を呼びかけました「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ in ＜まもと」につきまして、多くの個人、団体のみなさまからご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

＜募金総額＞

357,000 円（5 団体 /5 個人）

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 教授 大杉豊様、八木園 管理者 春木強様、光増昌久様、（ 特非 ）おしあげ ワンステップぼちぼち様、（ 福 ）安芸の郷様、（ 株 ）全国儀式サービス様、奥川法律事務所 弁護士奥川貴弥様、（ 福 ）和光福祉会 理事長 平川輝子様、岩佐 浩一様

（順不同／敬称略）

編集後記

今回訪問させて頂いたのは、例年ふれあいのスポーツ広場にご参加くださる施設で、このノンバーバルのワークショップの依頼も快く引き受けて頂きました。

当日はふれあいのスポーツ広場のＴシャツを着て参加くださる利用者も見受けられ、体育館で元気に走り回る利用者とは趣の異なる静かな雰囲気の中でのスタートとなりましたが、半年ぶりの庄﨑隆志さんとメイミさんの共演が、その牙城をいとも簡単に崩しました。傍から見ると、場が和むもしくは騒がしくなることが、既定路線のように感じてしまうこともありましたが、演者お二人の心の中では、その雰囲気づくりのために必死に１人１人と向き合っていたことを改めて実感しました。

今回は、ノンバーバル（非言語）で進行していく中で、参加者の方からバーバルでの意思表示も何度かありました。その意思表示は、常に言葉に頼ってコミュニケーションをしているときには気付かなかった、強い意志の伝達を感じました。その数少ないバーバルによって心をはぐし、はたまたコミュニケーションを図るきっかけにもなりました。

ノンバーバルのワークショップは、言葉以外でコミュニケーションをすることが目的にもかかわらず、バーバルでもコミュニケーションも再認識させてくれるツールになるのではないか？今後、ノンバーバルのワークショップがどのように発展していくのか期待をして、このワークショップに関わってくださった全ての関係者の皆様に御礼申し上げます。

（公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金 髙倉 和樹）

2019 年度ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ
実施報告書

2019 年 10 月発行
発行元　　公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金